

旧島津氏玉里邸庭園の調査報告

武藤 那賀子*

1. 旧島津氏玉里邸庭園が抱える問題

旧島津氏玉里邸庭園（鹿児島市玉里町27-20）は、幕末に作庭され、数度の戦火に遭いながらも現在にまで伝わっている元大名庭園／日本国指定名勝である。この庭園には上御庭と下御庭があるが、上御庭にあった邸宅は第二次世界大戦の際に焼失した。そして、跡地には現在、市立鹿児島女子高校が建っている。このため、上御庭は年に数度のみの入園が可能となっている。一方、下御庭は第二次世界大戦の被害はほぼ受けておらず、現在はほぼ毎日開園している。

この庭園は回遊式庭園で池を中心に一周できる造りになっており、どの位置からでも庭を一望できる。しかし、この庭園が人で混み合うといったことはまずない。この庭園に人が少ない理由は四点考えられる。一点目は、市内から少し距離があるという立地の問題である。二点目は、これに加えて、市バスの路線廃止やただでさえ少ないバスの本数減少により、2020年度からアクセスしづらい場所となったことである。三点目は、庭園内には休憩スペースがなく、庭園のパンフレットも簡易的なものであり、憩いの場とはなっていないことである。四点目は、庭園内の説明が足りないことであろう。これらのうち、四点目に着目し、研究対象とすることにした。

2. 研究の方法

本研究（武藤那賀子「玉里文庫本『古筆源氏物語』の調査と旧島津氏玉里邸庭園」、鹿児島国際大学地域総合研究所プロジェクト「鹿児島における観光資源の創出に関する理論的・実践的研究」（2020-2021年度））では、以下の二点に分けて研究を行なっている。

①玉里文庫本『古筆源氏物語』の調査

旧島津氏玉里邸庭園の上御庭にあった邸宅には、玉里島津家初代当主の島津久光（1817-1887）が集めた書物が数多くあった。これらは現在、鹿児島大学附属図書館と鹿児島県立歴史資料センター黎明館に分蔵されている。鹿児島大学附属図書館に所蔵された書物群は「玉里文庫」と命名されている。その中に『源氏物語』が二揃ある。片方は鎌倉時代後期から室町時代に書写されたと思しき十五帖のもの、もう片方は近世期に書写されたと思しき五十四帖揃のものである。この二つのうち、とくに十五帖のものは書誌学的

キーワード：旧島津氏玉里邸庭園，パンフレット改善，補足説明，歴史

* 本学国際文化学部専任講師

にも本文研究的にも注目すべき点が多くある。このため、書誌情報と本文研究を同時並行している。

②旧島津氏玉里邸庭園

前述したが、現在旧島津氏玉里邸庭園で配布されているパンフレットはコンパクトで持ちやすく読みやすいという利点があるものの、情報量が少ない。このことを踏まえて、庭園内にある建造物についての解説を試みる。なお、庭園内の建造物については、発掘調査時の報告書（鹿児島県教育委員会『名勝旧島津氏玉里邸庭園整備事業工事完了報告書』2015年3月）が最も詳しい。西南戦争や第二次世界大戦後の復旧作業を経たことと、元々は島津氏個人の邸宅であったために詳細不明な点が多いという問題がある。

3. 今回の報告

本報告は報告者のゼミナールに所属する学部三年生六人（一名は太田ゼミとの兼ゼミ生）と二年生一人によるレポートである。構成は以下のようになっている。

旧島津氏玉里邸庭園の構成	183097	樋口 実妃	p.15
旧島津氏玉里邸庭園とその歴史	183068	吉満 友美	p.18
黒門と国葬道路	183009	末永 颯汰	p.20
茶室	183087	岩元 涼夏	p.24
水道高枿	193026	坂口 依里菜	p.28
灯籠	183073	久保田 千仁	p.32
石造建造物	183059	白窪 怜	p.37

旧島津氏玉里邸庭園の構成

183097 樋口 実妃

1. 概要

旧島津氏玉里邸庭園は、島津家27代当主、薩摩藩10代藩主の斉興（1791～1859）が西武村五本松別館¹のお茶屋を移し造営するため、伊敷村の宇治瀬神社付近から妙谷寺門前に至る数枚の田圃を区域²として天保6年（1835）に造営された、大名庭園³である。現在の鹿児島市立鹿児島女子高等学校の一部と隣の御庭にあたる。現存する庭園は、斉興の子で玉里島津家の祖である島津久光（1817～1887）によって西南の役後の明治12年（1879）に再築された玉里邸の工事の際に改修整備したものであると考えられる。

現在の鹿児島市立鹿児島女子高等学校の校庭には、かつて存在していた書院座敷（図1参照）⁴に面して池庭があり、上御庭と呼ばれる。なお、書院造については、以下の説明がわかりやすい。

書院造とは、近世初期に完成した和風様式。平安時代に公家の住宅様式であった寝殿造が、武家の台頭によって武家住宅にも取り入れられ、時代が進むにつれて変化して、室町時代末から桃山時代にかけて大成した建築様式である。書院は本来、禅僧の住房の居間兼書斎の名称でしたが、やがて床の間・違棚・付書院など座敷飾と呼ばれる設備を備えた座敷や建物を広く呼ぶようになったもの。格式を重んじ、対面・接客の機能を重視してつくられていた。書院造では、書院に限らず、部屋や建物は、それぞれ特定の使用目的を持っており、書院造の大きな特徴の一つと言える。書院造で最も重要な場である書院には、庭に面した複数の部屋が用いられており、主人の座が置かれた主室は上段につくられ、さらに上々段が設けられることもあった。また主室の背後には、主人の座を荘厳なものにするため、書画の掛軸や生花・置物などを飾る床の間や、上下2段の棚板を左右食い違いに吊した違棚、縁側に張り出した机や飾り棚の付書院などの座敷飾が集中して備えられていた。こうした書院の構造や意匠も、対面・接客儀礼を目的に、主客の身分格差を空間的に表現するためのものである⁵。

1 武の五本松にあった、島津氏の別邸。

2 宇治瀬神社は現在の鹿児島神社（鹿児島市草牟田2丁目）。
妙国寺は消失し、今は妙国寺跡に碑が建てられている（鹿児島市下伊敷）。

3 大名庭園とは、江戸時代の各藩の大名が築造した庭園。

4 「世界の歴史マップ」<https://sekainorekisi.com/glossary/%E6%9B%B8%E9%99%A2%E9%80%A0>

5 「京都市歴史資料館 情報提供システム フィールド・ミュージアム京都」
<https://www2.city.kyoto.lg.jp/somu/rekishi/fm/nenpyou/htmlsheet/bunka06.html#f>

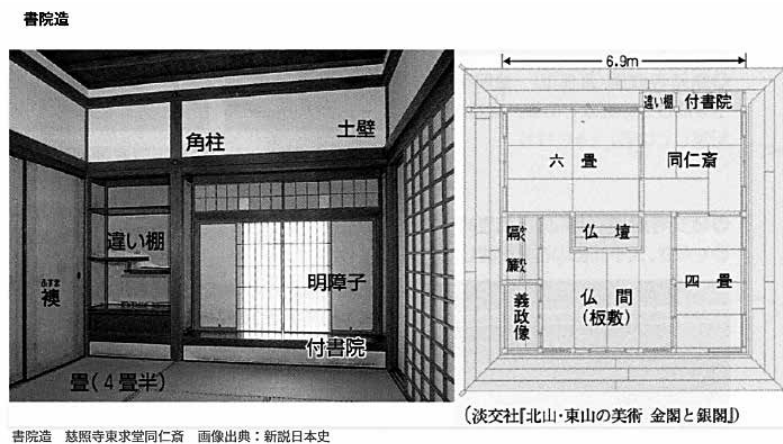


図1 書院造の例（世界の歴史マップ）

一方、西側の低地には茶室と園池からなる下御庭がある。上御庭と下御庭には、地域独自の材料・意図⁶が用いられていることから、南九州の江戸時代末期の大名庭園として学術上・芸術上・鑑賞上の価値が高く評価され、平成19年（2007）7月26日付けで、国の名勝に指定された。なお、国指定名勝とは、文化財保護法で認定されている名勝のうち、国が認定を行ったもの。全国に408件ある。鹿児島には、この庭を含め、9件あり、それをまとめたのが表1である⁷。

表1 鹿児島県内の国指定名勝（文化庁 国指定文化財等データベース）

台帳ID	管理対象ID	名称	文化財種類	種別1	重文指定年月日	都道府県	所在地	緯度	経度
401	2998	仙巖園 附 花倉御飯屋庭園	史跡名勝天然記念物	名勝	19580515	鹿児島県	鹿児島市吉野町	31.61841	130.5798
401	3003	知覧麓庭園	史跡名勝天然記念物	名勝	19810223	鹿児島県	南九州市	31.37944	130.4482
401	3291	坊津	史跡名勝天然記念物	名勝	20010129	鹿児島県	南さつま市坊津町	31.2631	130.2148
401	3545	旧島津氏玉里邸庭園	史跡名勝天然記念物	名勝	20070726	鹿児島県	鹿児島市	31.61203	130.5386
401	3546	志布志麓庭園 天水氏庭園 平山氏庭園 福山氏庭園	史跡名勝天然記念物	名勝	20070726	鹿児島県	志布志市	31.48187	131.1069

2. ^{うえのおにわ}上御庭

敷地東側の高台の書院座敷（現在は存在しない）に面していた池庭で、政務の場や接客対面の場としての書院造庭園である。この庭園は、自然の景色を凝縮して作られ、山や川、海がある、池泉鑑賞式の庭園である。この池の中には亀形の中島があり、このことから、「亀の池」と呼ばれる。

3. ^{したのおにわ}下御庭

鹿児島市立鹿児島女子高等学校の西隣には茶室と園池からなる池庭があり、庭園の様式は、宴遊の庭と

6 地域独自の材料・意図とは、磯から運んだ礎石や池の底に使われているシラス、朝鮮灯籠、池の名前の「鶴」「亀」のことだと推測される。

7 「文化庁 国指定文化財等データベース」 <https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/searchlist>

しての回遊式庭園（池泉回遊式庭園）⁸である。下御庭にも、池とその周縁の樹林との間に、回遊しながら庭園の景観を賞するように配慮された園路が設けられている。下御庭の池は、上御庭と呼応した、「鶴の池」という別名がある。この池は、山裾の自然の地形や樹林を巧みに利用し、神仙境になぞらえた、中島二島を配置していると言われている。中島二島は、中島が一つと小さな岩島が一つであり、東崖から岬が伸びており、岬を島に見立てて、三島一連という平安時代以来の伝統的な池庭の構成であると推測されている。中島にはかつて、島津義弘（1535～1619）が朝鮮出兵の際に用いた軍艦を象った楼舟（長さ7M/幅2.5M）が池中にあったと伝えられている。

4. 池の名前に「鶴」と「亀」が使われる理由

「鶴」や「亀」は、紀元前3～4世紀に発生した中国の古い思想である、神仙思想が由来とされている。神仙思想とは、神仙と呼ばれる蓬萊・方丈・瀛州^{ほうらい ほうじょう えいしゅう}の3つの山に神仙人が住んでおり、その人たちが主唱する養生摂生をすると不老不死になれるという考え方である。この考えが庭にも表れ、大海に見立てた大きな池を庭の中に穿ち、3つの島を浮かばせて三神山を表現した。日本では、池泉の庭だけではなく枯山水の庭でも、白砂を敷き、鶴と亀を意味する島を築いて神仙島を表している庭園もある。このような庭園を神仙説庭園という。旧島津氏玉里邸庭園もこの1つだといえる。こうした庭園は、江戸時代の大名庭園に多く見られ、大名が自己の長寿と永却の繁栄を願って作られたと元石川県兼六園事務所職員の下郷稔氏が述べている⁹。

【参考資料】

- ・西田政善「旧島津玉里邸の下庭」『鹿児島県文化財団調査報告書』第20集、鹿児島県教育委員会、1967年
- ・鹿児島市教育委員会『名勝旧島津氏玉里邸庭園一整備事業工事完了報告書―』2015年
- ・下郷稔「日本の庭と兼六園」『金沢大学教育開放センター 紀要』20, 2000年12月
- ・指宿市教育委員会「指宿市考古博物館時遊館 COCCO はしむれ年報・紀要」2009年3月
- ・『山川 日本史小辞典 改訂新版』山川出版社、2016年
- ・『日本大百科全書』小学館、1984年
- ・「国指定名勝の庭園 庭園ガイド」2020年12月18日16:10閲覧
<https://garden-guide.jp/cert.php?s=cs>
- ・「庭園情報メディア [おにわさん]」2021年2月5日17:50 閲覧
<https://oniwa.garden/tag/%E5%A4%A7%E5%90%8D%E5%BA%AD%E5%9C%92/>
- ・「文化庁 国指定文化財等データベース」2021年2月5日18:22閲覧
<https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/searchlist>
- ・「世界の歴史マップ」2021年2月10日11:35閲覧
<https://sekainorekisi.com/glossary/%E6%9B%B8%E9%99%A2%E9%80%A0/>
- ・「京都市歴史資料館 情報提供システム フィールド・ミュージアム京都」2021年2月10日12:30閲覧
<https://www2.city.kyoto.lg.jp/somu/rekishi/fm/nenpyou/htmlsheet/bunka06.html#f>

8 回遊式庭園とは、大きな池を中心に配し、その周囲に園路を巡らして、築山、池中に設けた小島、橋、名石などで各地の景勝などを再現したものである。

9 下郷稔「日本の庭と兼六園」『金沢大学教育開放センター 紀要』20, 2000年12月

旧島津氏玉里邸庭園とその歴史

183068 吉満 友美

1. 「玉里」の名前の由来

鹿児島市玉里町にある旧島津氏玉里邸庭園は、島津家27代当主、薩摩藩10代藩主の島津斉興によって、天保6（1835）年に西武村五本松別館のお茶屋を移し、造営された、大名庭園（大名庭園は江戸をはじめとする各地諸藩の大名の邸宅や別荘に設けられた庭園の総称）である。当時、斉興の別称が「玉印」であったことから、玉里邸と命名したことが「玉里」の名前の由来である。

2. 所有者の変遷

- 天保6（1835）年 島津家27代当主、薩摩藩10代藩主の島津斉興が、玉里の地に別邸を造営する¹⁰。
- 嘉永5（1852）年 1852年に第28代当主斉彬に領地を受け継がせる。
3年後の安政2（1855）年に斉興は玉里邸へ穩棲する。その後、斉興は1855～1859年の間玉里邸に住居した。
- 安政6（1859）年 斉興没後、養女で妹の勝姫が玉里邸に住居し、明治8（1875）年の逝去まで住み続ける。
- 明治8（1875）年 勝姫が逝去した後は家職（島津家の事務系統の役割を担っていた人）が玉里邸を管理した。
- 明治11（1878）年 明治10（1877）年に西南戦争により焼失した玉里邸を、斉興の五男で玉里島津家初代当主である久光（1817～1887）が再築し、子女とともにここに移り住む。逝去する1887年まで住居する。
- 明治23（1890）年 久光没後は明治21（1888）年に久光の七男である忠濟（1855～1915）が玉里島津家の家督を相続し、引き続き玉里邸に住んでいた。しかし、忠濟は1890年に東京へと転住したため玉里邸は別邸となって残った。
〔当初島津家本邸であった鶴丸城本丸は明治6（1873）年12月に失火によって焼失し、続いて明治10（1877）年9月に鶴丸城二の丸も西南戦争により焼失した。島津家の別邸であった仙巖園の御殿は島津家29代当主の島津忠義（1840～1897）が本邸にしていたため、忠濟は玉里邸を本邸としていた。〕
- 大正4（1915）年 忠濟没後、忠濟の長男である忠承（1903～1990）が玉里島津家の家督を相続した。
- 昭和26（1951）年 鹿児島市が玉里邸を買収し、昭和32（1957）年4月に鹿児島女子高等学校の校舎が建設されることになった。昭和34（1959）年4月には天保山から全校が移転した。

3. 焼失したものとその時期

天保6（1835）年に斉興によって玉里邸が造営されたが、明治10（1877）年9月に西南戦争により玉里邸は焼失した。加えて鶴丸城二の丸の久光邸も焼失したので、新館を玉里に造営するため、久光によって明治12（1879）年に玉里邸が再築される。現存する庭園は、再築された玉里邸の工事の際に改修整備したも

10 1833～1835年の2年間で現在の鹿児島市武町にあった西武村五本松のお茶屋を移し、造営した。

のであると考えられている。

第二次世界大戦によって、昭和20（1945）年7月19日に玉里邸の建造物は、茶室、武家長屋、長屋門、黒門を残し、全てが焼失した。庭園は灯籠が一部破壊したものの大きな被害は免れた。この時上御庭に位置する玉里邸主屋も焼失してしまったが、現在は鹿児島女子高等学校のグラウンドとなっている。

【参考資料】

- ・「鹿児島県 国指定名勝「旧島津氏玉里邸庭園」を紹介します」（2020/12/14 19:40 閲覧）
<https://www.pref.kagoshima.jp/ak01/chiiki/kagoshima/takarabako/shiseki/kyushimadushitamazatoteiteien.html>
- ・「鹿児島県 鹿児島（鶴丸）城跡の概要」（2021/2/12 1:03 閲覧）
<https://www.pref.kagoshima.jp/ab24/cms/documents/kagosimajou/gaiyou.html>
- ・「仙巖園」（2021/02/12 1:32 閲覧）
<https://www.senganen.jp/experience/the-house/>
- ・鹿児島市教育委員会『名勝旧島津氏玉里邸庭園 ― 整備事業工事完了報告書 ―』2015年

黒門と国葬道路

183009 末永 颯汰

1. 黒門

玉里邸庭園の入り口の門。薩摩藩の島津久光（1817～1887）の国葬の際に、久光の遺体を出棺するために造られた。その名の通り全体に木部が黒く塗られている。玉里邸庭園には元々長屋門という正門が北側にあった。しかし、久光の遺体を出棺するためには、死者の帰還を防ぐための仮門¹¹を造る必要があった。そのため、庭園の南側に新しく黒門が造られ、葬儀後は正門として使われるようになった¹²。太平洋戦争では、庭園も空襲の被害にあったが、黒門はその被害を逃れた数少ない建造物である。

この黒門は、徳川家の墓がある東京の寛永寺や武家屋敷といった武士にゆかりのある地で見られる。島津久光は明治維新に尽力したものの、帯刀、和装をやめず、武士としての生活を続けた人である¹³。そのため、仮門を造る際に、武士の時代の文化である黒門を造ったと考えられる。



図1 黒門正面

11 葬儀の際に、遺体を運ぶために作る門のこと。通常は、植物などで作る簡易的なものである。

12 『名勝旧島津氏玉里邸庭園一整備事業工事完了報告書一』 鹿児島市教育委員会 2015年

13 人物事典 幕末維新風雲伝 2020/12/30 20:00閲覧

<https://jpreki.com/shimazu-hisa>

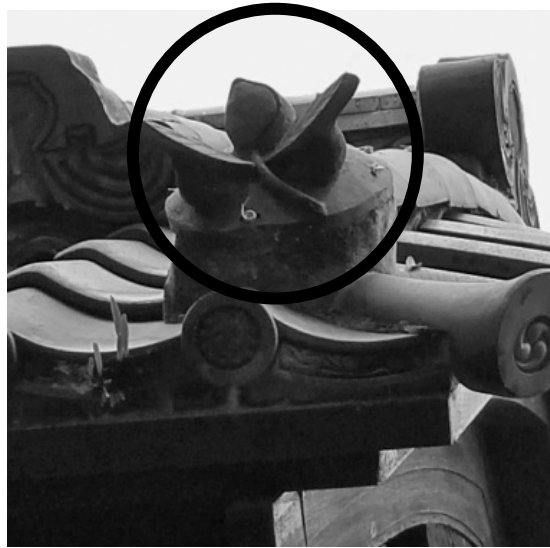


図2 屋根の四隅に見られる桃瓦¹⁴

2. 国葬道路

黒門から現在の国道3号線まで続いている、約700メートルの道路（図3）。この道路は、国葬の際に、久光の遺体を福昌寺¹⁵に運ぶために、新しく造られた道路である。

国葬とは、国家に功労のあった人物の死去に際し、国費を使って行う葬儀のことである。島津久光は、明治維新で活躍し、明治政府でも左大臣を務めた人物であった。そのため、国家の功労者となり、国葬となった。久光の国葬は、正式な国葬としては、岩倉具視に次いで2回目の国葬であった¹⁶。



図3 現在の国葬道路

14 中国や日本では桃は魔よけとされていた。鬼を退治する「桃太郎」がいい例である。

15 鹿児島市池之上町にある寺。廃仏毀釈（はいぶつきしゃく：明治時代の仏教排斥運動）によって破壊され、現在は墓所のみ残っている。

たびらい <https://www.tabirai.net/sightseeing/column/0006286.aspx>

16 『国史大辞典 第五巻』 吉川弘文館 1984年



図4 玉里邸庭園と福昌寺の位置関係

3. 石敢當 (せきかんとう, せっかんとう)

石敢當とは、黒門の近くにある石碑(図5)のことで、魔よけの効果がある。中国発祥のもので、丁字路や十字路の突き当たりにあることで魔よけになる¹⁷。日本では沖縄に散見するものだが、薩摩藩は、琉球との交流が盛んだったため、このようなものも見られる。

石敢當の由来に関しては複数の説がある。例えば中国では、「石」は人の性であり、「敢當」が「^あ当たる所敵なき」を意味しているという説や、石には呪力があるという考え方から、石が邪悪なものに当たってそれらをはねのける「石敢^あえて^あ当たる」という意味だという説もある。また、沖縄には、昔中国に「石敢當」と呼ばれる武人や強い霊力を持った人物がいたという伝承が複数あり、それが由来となったのではないかと考えられている¹⁸。



図5 黒門の正面にある石敢當

17 『日本国語大辞典 第2版』 小学館 2000年

18 山里純一 『石敢當覚書』 日本文化東洋文化集9号(2003年3月)

<https://hdl.handle.net/20.500.12000/2389>

4. 長屋門

黒門ができる前の玉里邸庭園の正門（図6）。現在は鹿児島女子高内に移設されている。この門は、島津家第27代当主島津^{なりおき}齊興によって、天保6年（1835）に造営された。

昭和61年には鹿児島女子高校の増築が行われたため、前年に長屋門の移設工事が行われた。この工事で長屋の端のほうがり取りられ、体育倉庫としてそのままの位置で残されることになった。一方、門と短くなった長屋門は180度向きを変え、現在の位置に移設された。現在は鹿児島女子高校の歴史資料室として利用されている¹⁹。

鹿児島市の木造建造物は、西南戦争、太平洋戦争でほとんど消失している。しかし、長屋門は、その戦災を逃れ、そのままの形を残している貴重な建造物である。



図6 長屋門

【参考文献】

- ・『名勝旧島津氏玉里邸庭園一整備事業工事完了報告書一』鹿児島市教育委員会 2015年
- ・『国史大辞典 第五巻』吉川弘文館 1984年
- ・『日本国語大辞典 第2版』小学館 2000年
- ・旧島津氏玉里邸長屋門 解説看板
- ・人物事典 幕末維新風雲伝 2020/12/30 20:00閲覧 <https://jpreki.com/shimazu-hisa>
- ・たびらい 2020/12/30 20:00閲覧
<https://www.tabirai.net/sightseeing/column/0006286.aspx>
- ・山里純一 『石敢當覚書』日本文化東洋文化集9号（2003年3月）2020/3/30閲覧
<https://hdl.handle.net/20.500.12000/2389>

19 旧島津氏玉里邸長屋門 解説看板

茶室

183087 岩元 涼夏

1. 旧島津氏玉里邸庭園概要

島津家第27代当主で薩摩藩10代藩主の島津斉興によって、天保6（1835）年に築庭された。

明治10（1877）年9月、西南戦争により焼失したのち、斉興の第5子である島津久光により、同12（1879）年に再築された。

昭和20（1945）年7月19日の空襲の際、茶室と長屋門は戦火を逃れた。

現在のところ茶室の建設年代を明らかにする資料は見つかっていないため、上記の明治12（1879）年に再築されたのか確かではない。

2. 構成（図1）

6畳敷の主室。同じく6畳敷の次の間からなる書院茶室²⁰。次の間の西側に控えの間が6畳、北側に控えの間が3畳。

※文中の方角は下図を基準として考える。

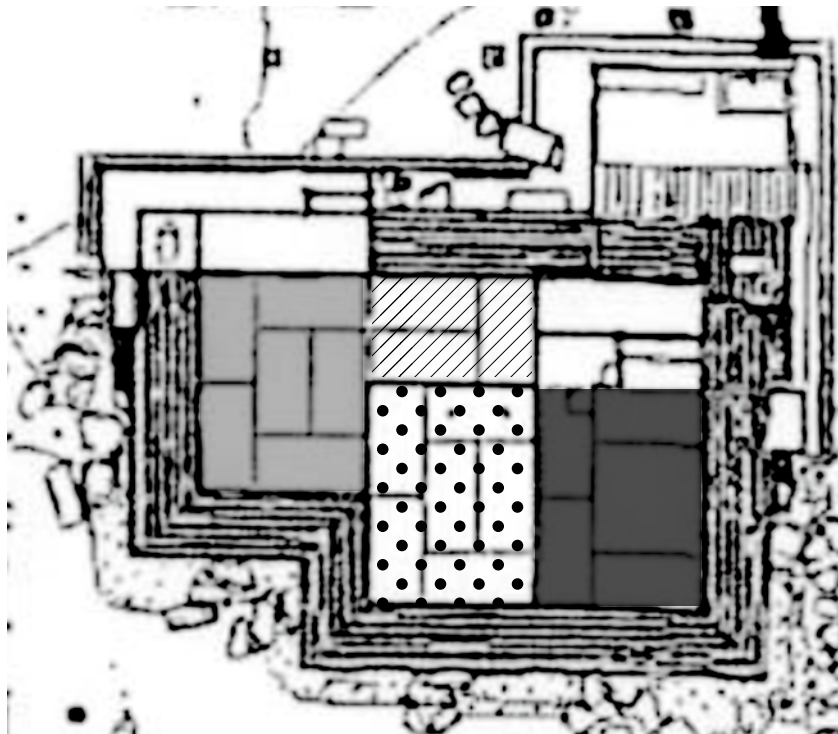


図1 茶室の構成

■：主室，□：次の間，●：控えの間（6畳），▨：控えの間（3畳）

引用：鹿児島市教育委員会編『名勝旧島津氏玉里邸庭園 整備事業工事完了報告書』（2015.3）

20 4畳半以上の広間で床・棚・付書院など書院造の要素を備えた茶室。

3. 主室

主室は北側に床（床の間）を配し、正面（側）に池庭を望む。池面は茶室の建つ地盤から1～2m 低くなっているため、茶室から水面を広く見渡せる。

主室6畳は北側に床を配し、それと並んで点前座²¹を設ける。（改築後か）

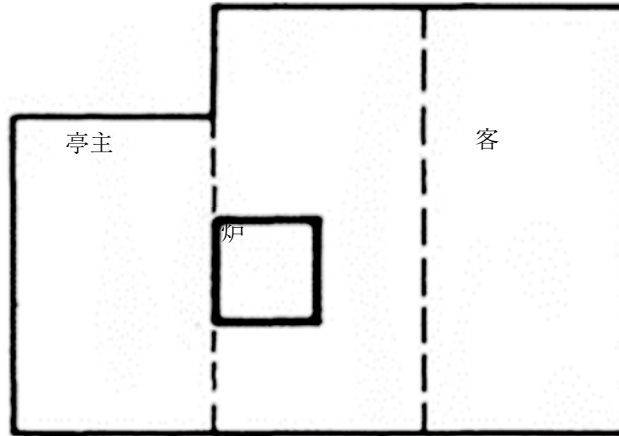


図2 本勝手の台目切

引用：ジャパンナレッジ Lib『国史大辞典』吉川弘文館（2020年12月26日11：00閲覧） 一部加筆

点前座は台目畳²²に中柱をたてた台目構²³である。炉は本勝手²⁴の台目切²⁵で、中柱には曲がりのない真竹を立てる（図2）。中柱から床柱にかけて袖壁がつき、畳から3尺3寸（99.99cm。約1m）の高さに横木を入れて壁留とし、下方を吹き放している。横木は少し曲がりのある自然木（サルスベリあるいはリョウブ）である。

点前座と座敷との境に5尺2寸（157.56cm。約158cm）ほどの高さに無目²⁶の鴨居を入れている。茶道口の内法は4尺9寸（148.47cm。約148cm）とさらに低い。点前座の鴨居や天井を客座より一段低くしているのはいかにも茶室にふさわしい構えではあるが、無目の鴨居と中柱を途中で止めて天井から下がる小壁と袖壁を一面にそろえている点、壁留に間借りのある自然木を用いている点は古典とは異なる手法である。

点前棚は二重棚を吊る。上の棚が大きい雲雀棚²⁷の形式である（図3）。

21 茶室で亭主が茶を点てるために座る場所のこと。一般には点前畳と踏込畳を含めた、茶室で亭主が茶を点てるのに必要な場所のこと。

22 1畳の約4分の3の長さの畳。茶室の点前の座として用いられる。

23 炉の角に中柱を立て、袖壁をつけ、その下部を吹き抜き、点前座の袖壁の隅に二重棚をつる造り。小間のわび茶の世界を表わすとされる。

24 茶の湯で、客が主人の右手に座るかたちの茶席。

25 1畳の畳の約4分の1を切り去って、約4分の3の大きさにすること。

26 敷居・鴨居と同じ位置にあり、建具を入れる溝のない横木。

27 台目構の中柱を立てた袖壁の入隅に取り付ける二重棚の一種で、横竹の上の下棚をのせ、その上を下棚より大きな上棚を取り付けた仕付棚。



図3 雲雀棚

引用：岩崎建築研究室（2020年12月28日13：47閲覧）

4. 次の間

次の間と主室の間は本来ふすまが立つが、現在は外されている。欄間に大きな下地窓をあけている。主室と次の間はふすまを取り外して12畳の大きな広間の茶室としての利用もあったかと考えられている。その場合、台目溝の点前座は低い鴨居と中柱によって客座と隔てられ、書院風の広間の茶座敷の中に草庵風²⁸の点前座が巧みに取り込まれた形になっている。書院の茶立所²⁹を思わせる構成である。

座敷の中央に点前座を構えて、あたかも茶立所のような構成を見せるのは小堀遠州^{こぼりえんしゅう}（1579-1647）が得意とした手法であり、遠州に茶を学んだ藤村庸軒^{ふじむらようけん}（1613-1699）も同様の構えを試みている。

5. 控えの間

次の間の西に6畳の控えの間、また北にも3畳の控えの間がある。これは予備的な部屋であると同時に、茶会するときなどは勝手の機能を果たす。3畳の控えの間から点前座の茶道口に至る畳廊下には、低い花頭口や円窓の下地窓をあけるなど、点前座に連続する草庵風の意匠が展開している。

6. 水屋

北東隅の突出部は土間で、水屋を兼ねた勝手の入り口として利用されている。

畳廊下の奥に土間があり、水道の施設が整えられ、茶会ときの亭主側の上がり口であると同時に、勝手（水屋）としても機能している。

現在は通常の稽古など、茶室の利用に際しての入口になっている。

7. 池

茶室東側に溪谷をかたどった滝流れがあり、東側に織部型灯笼³⁰を配す（図4）。流れは茶室東南隅を回

28 4畳半以下の小間で、書院造を草体化した丸太造りの軽快な普請をいう。土壁で囲って、窓や出入口をあける構造。

29 座敷とは別の茶を点てる部屋。書院では、この別室の茶立所で点茶し座敷に運び込んだ。

30 利休の高弟で茶人、戦国武将でもある古田（ふるた）織部（おりべ）が考案し、好んだとされる石灯笼。茶庭（露地）の明かりとして足元を照らすために使用される。竿を地に生け込むため、高さを調節でき、都合がよい。竿が十字に似ていること、下の像が宣教師に似ていること、上部のふくらんだところの文字がローマ字にも見えることから、俗に「キリシタン灯笼」ともいう。しかし実際にはキリシタンとは関係がなく、宣教師に見えるものは、仏教の僧侶か仏像の姿で、ローマ字に見えるものは梵字で

り込んで主室正面で南に折れ、自然石の大石橋のしたを潜って滝となって池に注ぐ。茶室と池の高低差が十分とられているため、渓谷のようになる。

8. 沓脱石^{くつぬぎいし}

縁先には大きな沓脱石が据えられており、縁を介して庭から座敷へ上がることができる。庭園を茶庭（露地）とみなした茶室のとき主要な上がり口になる。



図4 玉里邸庭園の織部型灯籠

【参考文献】

- ・ 鹿児島市教育委員会編『名勝旧島津氏玉里邸庭園 整備事業工事完了報告書』2015.3, pp22-29
- ・ 鹿児島県教育委員会編『鹿児島県文化財調査報告書19～20集』1972-1973, pp4-6
- ・ 福地謙四郎著『日本の石燈籠』, 理工学社, 1978.11
- ・ ジャパンナレッジ Lib『日本国語大辞典』2020年12月26日（土）10時23分閲覧
<https://japanknowledge.com/library/>
- ・ 旧島津氏玉里邸庭園（鹿児島市文化財課）12月26日（土）11時30分閲覧
<http://www.city.kagoshima.lg.jp/kyoiku/kanri/bunkazai/bunka/bunka/bunkazai/tamazatoteienn.html>
- ・ 「岩崎建築研究室」12月28日（月）13時47分閲覧
<http://blog.livedoor.jp/iwasakiyasushi/archives/520199/5.html>

あろうとされる。『名勝旧島津氏玉里邸庭園 整備事業工事完了報告書』には「西側に配する」とあったが、織部型灯籠の特徴と図1の方角に照らし合わせて、茶室の東側にある灯籠を指すと考えられる。西側の灯籠は、その特徴から織部型灯籠でないことは確かだろうが、どの種類の石灯籠かは判断できない。現地調査後、考察の余地がある。

水道高榭

193026 坂口 依里菜

1. 高榭について

そもそも「高榭（たかます）」とは、簡単に言うと給水塔である。当時では珍しい自然流下による圧力給水方式を用いていたと伝えられている。主な役割は、地下にある石管から送られてくる水の水圧の調整、及び分配である。簡単な内部構造の説明としては、高榭の側面（南面と東面）にある石管が地下にある石管につながっており、そこから高榭中央の榭に水が流れていたと考えられる。



図1 玉里邸庭園茶室北側の高榭

丸で囲んであるのが側面（東面）の石管である。これが地下の石管とつながっていたとされる。これ以外に高榭南面にも石管は存在する。

冷水町の水を鶴丸城まで引いて、その余水を城下町、特に甲突川下流に位置する下町方面の各地に設置された高榭に送水され、それを当時の人々は使っていた。玉里邸庭園の場合、東の方にある紙屋谷^{かみやたに}と呼ばれる所の湧水から直接水を引いていたとされる（図2）³¹。

31 「名勝旧島津氏玉里邸庭園 一整備事業完了報告書一」 p 84. 18行目～24行目



図2 玉里邸庭園と紙屋谷

左の丸が玉里邸庭園。

右の丸が紙屋谷の大体の場所。調べても正確な紙屋谷の場所は特定できず、辛うじて紙屋谷というバスの停留所があることが分かったので、この地図ではその停留所がある近辺が紙屋谷ではないかと推測し、おおよその目安としてそこを丸で囲った。

2. 玉里庭園の高榊

玉里庭園に現存する高榊は3基あり、内2基は下御庭（図3）に、1基は上御庭（図4）にある。玉里庭園内で一番触れる機会が多い高榊は、下御庭の茶室北側の高榊であると思う。下御庭にあるもう一つの高榊は少々見つけにくい位置にある。茶室北側の高榊には、内部にセンサーが設置されており、竹筒のある方の正面に立つと自動で水が一定時間流れてくる。

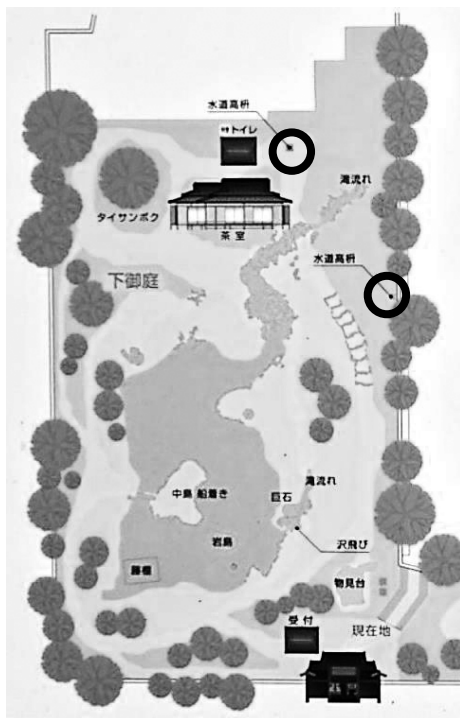


図3 下御庭

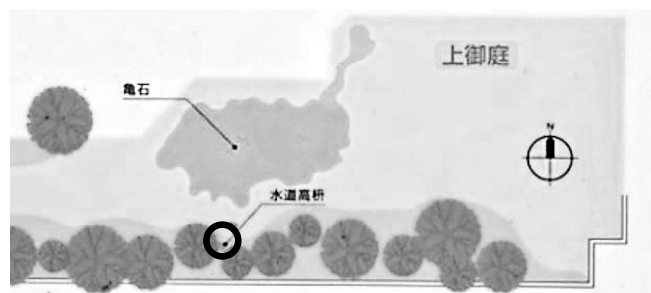


図4 上御庭

かなり見にくいですが、丸で囲ってあるものが高榊の場所になる。

この画像は玉里邸庭園に設置されている看板である。



図5 茶室北側の高榊から水が流れる様子

丸で囲っている，竹筒の上の方にある穴の中にセンサーがある。画像では全く見えないが，実際に穴の中を覗くと見える（図5）。

県内には玉里邸庭園の3基以外にも高榊は存在する。仙巖園の大規模な高榊と，鹿児島市の水道局前に設置された（玉里邸庭園の高榊と比べると）規模の大きい高榊の2つである。しかし水道局の高榊は文献によるとももとは玉里邸庭園にあったものを水道局前に設置しなおしたものらしい。しかも，この水道局前の高榊が玉里邸庭園内にある高榊より規模が大きいことから，玉里邸庭園での給水系統の源ではないかと考えられている。



図6 水道局前の高榊



図7 仙巖園の高樹

【参考資料】

- ・「鹿児島県／国指定名勝「旧島津氏玉里邸庭園」を紹介します」2021/02/04 21：24閲覧
<https://www.pref.kagoshima.jp/ak01/chiiki/kagoshima/takarabako/shiseki/kyushimadushitamazatoteiteien.html>
- ・「藩政時代の水道」2021/02/04 21：47閲覧
<http://www.city.kagoshima.lg.jp/suido/soumu/sdsoumu/gesuido/gaiyo/rekishi/suidoshi/hanse.html>
- ・「七窪水源地の解説シート」2021/02/06 12：30閲覧
<https://committees.jsce.or.jp/heritage/node/5>
- ・「仙巖園（磯庭園） 高ますクチコミ・アクセス営業時間」2021/02/07 12：14閲覧
https://4travel.jp/dm_shisetsu/11584421
- ・「かだいおうち—鹿児島城下の水道」2021/02/07 10：27閲覧
<https://www.sci.kagoshima-u.ac.jp/oyo/advanced/engineering/waterworks.html>
- ・「名勝旧島津氏玉里邸庭園—整備事業完了報告書—」鹿児島市教育委員会 平成27年3月

灯笼

183073 久保田 千仁

旧島津玉里庭園下御庭には、9基の灯笼が確認できる。場所は図1のとおりである。

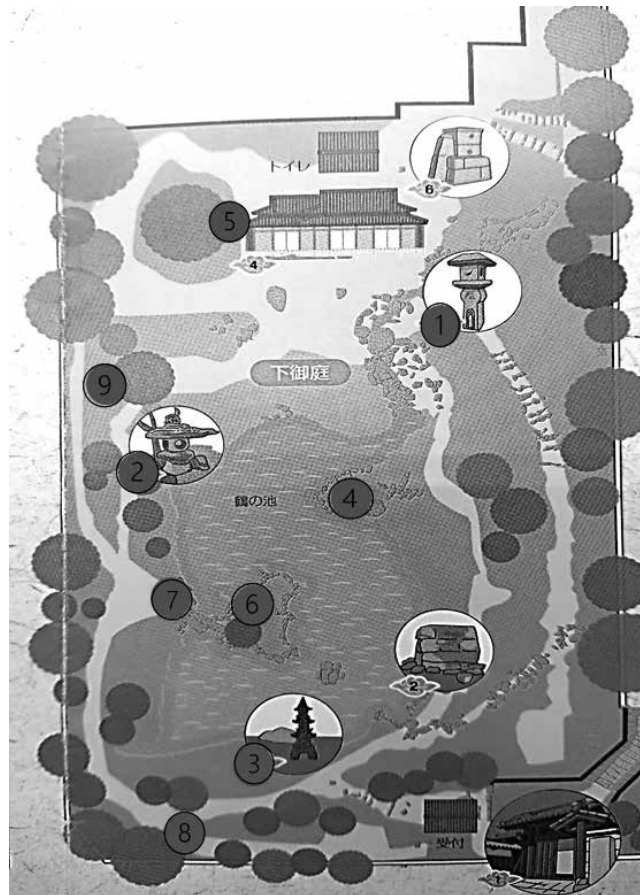


図1 下御庭内の灯笼の位置（国指定名勝旧島津玉里庭園パンフレットに一部加筆）

- ①茶室から見て沢の向こう側に立っている灯笼はキリシタン灯笼（織部灯笼）と呼ばれている。
- ②入り口から池を左に周回した中ごろに獅子の彫刻を載せた山灯笼がある。笠の上に伏せの体制の獅子が乗っている。
- ③入り口から池の右手に池の中に笠石に瓦・軒を浮き彫りにした三重石塔型の灯笼が建っている。
- ④入り口から入って池を右に回り、巨石（磯石）の向こう側池に突き出した陸地に平たく六角形の笠の丸い透かし彫りの入った火袋の灯笼が設置されている。
- ⑤池から見て茶室の左側に鹿の模様の入った火袋の灯笼がある。
- ⑥鶴の池の中の中島の上にも火袋から下の柱がない灯笼がある。
- ⑦鶴の池の中島と陸地とをつなぐ橋の陸地側に丸い火袋で笠の上に飾りのついた柱の載っている灯笼がある。
- ⑧門から入っての道に蓮の装飾のついた柱の灯笼がある。
- ⑨庭を入り口河見渡して左奥の木々の中に四つ足の灯笼。

なお、灯籠の各部の名称は一般的に右の図のようになっている。

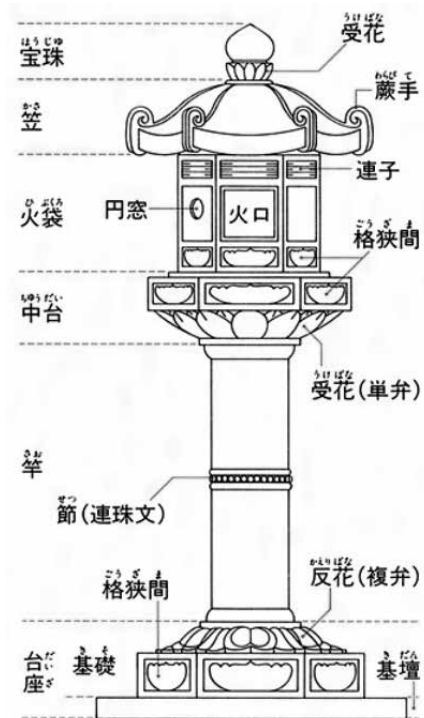


図2 台灯籠の各部名称 (引用「コトバンク灯籠とは」)

1) 旧島津玉里邸庭園のキリシタン灯籠 / 織部灯籠 (①)

キリシタン灯籠の特徴は火袋と柱の間に丸く膨らんでいる部分に模様のようなものが彫り込まれている。これを左に90度傾けると「Lhq」という文字のようにも見える。

日本に存在するキリシタン灯籠（織部灯籠）にはこのような文字が刻まれている。同じく文字の下，柱の下部に楕円の空洞の中にある人型はマリア観音とされている。キリシタン灯籠はこのような同じ形式をとっている。

玉里庭園のキリシタン灯籠の向かって右側面に非常に読みづらいが「錦生舗花 又一重」（二行）と四字熟語が書かれているように見える。似たような四字熟語に「錦上添花」という言葉がある。錦の上に花を置くように，美しいものの上に，さらに美しい物を加える。よい上にさらにさらに良いものを添えるという意味で，王安石（1021-1086）の「即時詩」³²にある文である。

玉里邸庭園のこの灯籠は「上」の部分「生」になっているため，錦の上に花が生い茂っているというような意味になる。どちらにせよ素晴らしい意味であることに変わりはない。

向かって左側の側面にも文字がある。こちらには「岩松无心 風来吟」（二行）と彫ってある。岩の上の松は無心で，風が来た時に音を奏でる，無心の境地を意味する禅語である。灯籠に刻まれた文字は織部灯籠に共通の様式で，茶道の掛け軸などにも使用されている禅語である。

2) 「織部灯籠」とは

桃山時代，茶の湯の興隆により，新しく露地が生まれ，夜の茶会の為に露地の明かりとして，古社寺の石灯籠が利用されるようになり，さらには，茶人の好みのものが新しく創作された。

32 「福島みんなのニュース 今日四字熟語・故事成語」(2021年2月14日13:15閲覧) fukushima-net.com

〔即時詩〕

河路南苑岸西斜

河は南苑を流れ岸は西に斜めなり

風有晶光露有華

風に晶光（しょうこう）有り露に華有り

門柳故人陶令宅

門柳（もんりゅう）は故人陶令が宅

井桐前日總持家

井桐（せいどう）は、前日（ゼンジツ）総持（ソウジ）が家

嘉招欲覆盃中淥

嘉招（カシヨウ）覆（かさ）ねんと欲す盃中の淥（ロク）

麗唱仍添錦上花

麗唱仍（よ）って錦上花を添う

便作武陵樽俎客

便（すなわ）ち武陵樽俎（ソンソ）の客となる

川源應未少紅霞

川源（センゲン）応（まさ）に未だ紅霞（コウカ）を少（か）かざるべし

（現代語訳）

河は南の苑（その）を流れ、岸は西に傾斜。

風はきらきらと光り、露は花のよう。

門前に柳があるのは、旧友の陶知事の家。

井戸の傍の桐の木がるのは、以前、総持の家。

よき招きにあずかり、盃を何度も傾けたい純米酒。

みごとな歌のもてなしは、錦の上に花を添えたよう。

武陵の桃源に遊んだ漁師のように、帰ることも忘れてしまいそう。

川の源の空はまだ夕焼けに染まっている、色褪せることなく。

その代表的なものが織部形石灯籠である。竿の円部に、アルファベットを組み合わせた記号を陰刻し、その下部に立像を浮彫にしている。これを地藏信仰に似せた隠切支丹の尊像と見て、マリア灯籠や切支丹灯籠とも言われた。一般的には、桃山時代の茶人、古田織部が創案したものとして、織部灯籠とよばれている³³。

3) 「キリシタン灯籠」とは

織部灯籠はキリシタン灯籠とも称される。このキリシタン灯籠とキリシタンが関係していることは立証されていない。造園用語辞典には、次のようにある。

キリシタン灯籠（きりしたんとうろう）

33 「織部灯籠」（2021年1月10日19:00閲覧）

<http://www.web-uekiya.com/nouen/touro/oribe/t-oribe.htm>

江戸時代のキリスト教が禁じられていた時に、ひっそりと拝まれていた灯籠です。形が十字架に似ているので、拝まれたようです³⁴。

辞典にも「…ようです」のように推量の域を出ない記載がされている。

井上章一『南蛮幻想 ユリシーズ伝説と安土城』は、キリシタン灯籠について以下のように述べている。織部灯籠／キリシタン灯籠を隠れキリシタンが信仰していたという話が出始めたのは禁教令が発令されていた江戸時代からではなく、大正末期からだという。大正末期、早くに話題に上ったのは静岡である。郷土史家の法月俊介が盛んに言い出し、知られるようになった。初めて全国紙に取り上げられたのは1929年（昭和4年）。内容は東京目黒行人坂上大聖院（東京都目黒区下目黒3丁目1-3）に妙な形の灯籠があり、これが十字架のように見え、刻まれているのが伴天連の像らしい、というものである。そこから同じ様式をしている灯籠が発見されたとの報告が上がるようになり、ちょっとしたブームになっていたようである。歴史家の間ではキリシタンとの関連性が否定的であるキリシタン灯籠であるが、造園学界隈では好意的に受け止められ、同じような様式をした灯籠を作りキリシタン灯籠として石材店などで売られるようになった。

この灯籠がキリシタンと結びつけて考えられていた証拠として、川端康成の『舞姫』や『古都』にキリシタン灯籠の描写がある。

キリシタン灯籠は、むかし、キリシタン禁制のころにつくられたものであろう……

むかしは信仰のしるしであったか、むかし異国風の飾りであったかの、キリシタン灯籠が……おかれている。（川端康成『古都』）

このことから一般的にも認知されていたことであろうと考えられる。芹沢光治良の『女にうまれて』ではマリア灯籠という名称でキリシタン灯籠が登場する。

1930年ごろ、考古学会でキリシタン遺物が多く発見される。キリシタン文学のブームの背景もあり、他に例を見ない珍しい形である事と、古田織部がバテレンたちと交流を持っていたということからキリシタンに結びつけてしまったのではないかと井上は述べている。

このキリシタン灯籠というものは一般的な灯籠とは少し異なる形をしている。しかし、信仰の対象になった論証できるものはないと、『南蛮幻想 ユリシーズ伝説と安土城』では記述されている。

4) 「古田織部」とは

1544-1615年、安土桃山・江戸時代前期の茶人。美濃の生まれで、千利休次代の名人で、織部流茶道の開祖である。豊臣秀吉に仕え、山城国西岡を支配。九州征伐や小田原征伐に従軍している。美濃陶器の織部焼など茶道に大きな影響を与えている。

5) 旧島津氏玉里邸庭園と古田織部・キリシタン灯籠との関係

玉里邸庭園には嘉永4年（1852年）に島津斉興が隠居後に玉里邸庭園に住み、安政6年（1859年）に斉興の死後は養女勝姫が居住。勝姫は隠れキリシタンであり、秘かに拝んでいたと考える事が出来る。

34 WEBIO 辞書（2021年2月13日3:00閲覧）<https://www.weblio.jp/content/%E3%82%AD%E3%83%AA%E3%82%B7%E3%82%BF%E3%83%B3%E7%81%AF%E7%B1%A0>

【参考文献】

- ・「キリシタン灯籠 山本有三」(2020年12月30日12:00閲覧)
<https://blog.goo.ne.jp/hibebach/e/ef3c48b35880f7c2a60968d24f9404d8>
- ・「鹿児島県サイト」(2020年12月28日10:00閲覧)
<http://www.pref.kagoshima.jp/ak01/chiiki/kagoshima/takarabako/shiseki/kyushimadushitamazatoteiteien.html>
- ・「KAGOPIC 玉里庭園」(2020年12月28日12:00閲覧)
<http://kagopic.com/tamazato-gardens-and-tea-house/>
- ・「ことぶき造形」(2020年12月28日13:00閲覧)
<https://kotobukilandscap.com/2020/07/16/%e6%97%a7%e5%b3%b6%e6%b4%a5%e6%b0%8f%e7%8e%89%e9%87%8c%e9%82%b8%e5%ba%ad%e5%9c%92%e3%81%ae%e8%a6%8b%e6%89%80/>
- ・「織部灯籠」(2021年1月10日18:00閲覧)
<https://www.bokushinan.com/>
- ・『国史大辞典』第十二巻, 株式会社吉川弘文館, 1991年
- ・井上章一『南蛮幻想 ユリシーズ伝説と安土城』文藝春秋, 1998年9月
- ・WEBIO 辞書 (2021年2月13日3:00閲覧)
<https://www.weblio.jp/content/%E3%82%AD%E3%83%AA%E3%82%B7%E3%82%BF%E3%83%B3%E7%81%AF%E7%B1%A0>
- ・川端康成『古都』新潮社(文庫), 1987年, p.7
- ・「コトバンク 灯籠とは」(2021年2月14日13:58閲覧)
<https://kotobank.jp/word/%E7%81%AF%E7%B1%A0-104446>

石造建造物

183059 白窪 伶

1. 亀石

亀石は中国の蓬莱思想で長寿延年を祈願するため、亀などの長寿の動物を借りてその形を庭に依拠したものである。

一つの石で亀を表すこともあるが、玉里邸庭園では亀脚石が置かれ、亀を模している。

2. 磯石

高さ2.61m, 幅3.2m, 奥行1.67m。海浜部（磯）の自然礫を53パーツに分割し、運び込み再構築。搬入後、再構築の際にはセメント（モルタル）を用いて分割面の接着をしたと伝えられている。（表1・図1参照）

表1 分割された磯石の計測表

表3-3 磯石計測表

	幅(cm)	長さ(cm)		幅(cm)	長さ(cm)
1	182.0	46.0	30	64.0	44.0
2	102.0	38.0	31	49.0	30.0
3	107.0	116.0	32	80.0	126.0
4	132.0	70.0	33	70.0	63.0
5	36.0	70.0	34	60.0	29.0
6	142.0	128.0	35	158.0	60.0
7	102.0	35.0	36	120.0	58.0
8	140.0	62.0	37	196.0	78.0
9	178.0	92.0	38	124.0	82.0
10	110.0	56.0	39	82.0	62.0
11	94.0	57.0	40	92.0	64.0
12	164.0	64.0	41	74.0	70.0
13	80.0	50.0	42	61.0	64.0
14	98.0	72.0	43	24.0	20.0
15	90.0	81.0	44	20.0	30.0
16	136.0	76.0	45	14.0	32.0
17	82.0	62.0	46	16.0	14.0
18	98.0	46.0	47	50.0	82.0
19	108.0	82.0	48	132.0	56.0
20	60.0	74.0	49	40.0	76.0
21	60.0	60.0	50	66.0	24.0
22	98.0	60.0	51	44.0	66.0
23	64.0	64.0	52	56.0	34.0
24	104.0	42.0	53	60.0	48.0
25	126.0	102.0	54	67.0	34.0
26	134.0	128.0	55	62.0	58.0
27	22.0	60.0	56	61.0	55.0
28	146.0	58.0	57	14.0	36.0
29	104.0	32.0	58	46.0	35.0

※それぞれ最大幅・最大長を計測

引用：鹿児島市教育委員会『名勝旧島津氏玉里邸庭園一整備事業工事完了報告書一』2015年



図3-52 磯石平面図・立面図

図1 磯石平面図・立面図

鹿児島市教育委員会『名勝旧島津氏玉里邸庭園一整備事業工事完了報告書一』2015年

これに類似した庭石が仙巖園にもある。



図2 仙巖園御殿付近にある灯籠

石材の表面には一部「二」や「下」という刻印が刻まれている。庭石本体に刻むという差はあるが岡山後楽園の「大立石木型」に記された符丁と考えられる墨書きに共通している。符丁は、分割数や石を元に戻す際の接着面を表す印のこと。

分割の際は、矢穴技法でされた。矢穴技法とは石を割る技法の一つ³⁵。

- 1) セットウと呼ばれる金槌とノミを使い、石に「矢穴」と呼ばれる矢穴を列状にいくつかが掘る（図3）。
* 玉里邸庭園の磯石に掘られた矢穴は、幅4.0～5.0cm、矢穴間隔4.0～6.0cm、深さ4.5～5.5cmとなっている。
- 2) 矢と呼ばれる鉄製で楔状の道具を矢穴に差し込みゲンノウで叩くことで、徐々に石に矢が食い込んでいく。
- 3) ある程度食い込むと医師に亀裂が発生し、一気に割れる。テコを使い割れ目を押し広げる。

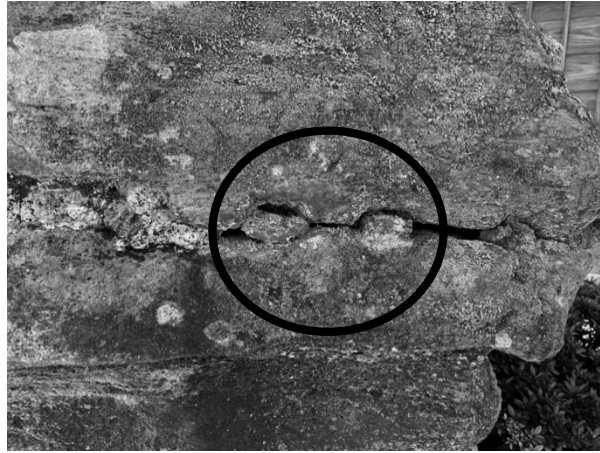


図3 仙巖園御殿付近にある灯籠。囲まれている部分が矢穴の跡になる。

「元禄四年（1691年）に岡山後楽園に運び込むように命令が下った『大立石』を140～150年後に見た齊興が感銘を受け薩摩地において真似たのではないか³⁶と予察されている。

「大立石」とは岡山後楽園にある庭石で、巨大な自然石をあえて矢穴技法により92分割し、再構築をして庭園に設置されたもの。後楽園には同じ方法で設置された「烏帽子岩」も存在する。烏帽子岩は36分割されている。

3. 三橋様式の橋

三橋様式は中国の「こけいさんしょう虎溪三笑」という故事からきている。「虎溪三笑」は『ろざんき廬山記』叙山北の一部に記載されている。「虎溪三笑」は、えおん慧遠法師が廬山にいた時訪ねて来たとうえんめい陶淵明と陸修静を送りながら話していたら、話に夢中になり日頃渡るのを避けていた虎溪を過ぎてしまい、虎の声を聞き初めて気がつき三人で大笑いをしたという話である。

廬山の虎溪の石橋には三教融合の逸話があることや、廬山の石橋で有名なものに三石梁というものがあり、三石梁は滝の名称であるが昔は3つの石を渡した橋であると考えられていた。その事から三橋様式と「虎溪三笑」は関連したと考えられている。

35 以下の動画を参考にした。

「石工が挑戦する矢穴技法 18分版」<https://youtu.be/YmSAXXLHNoc>

「石工が挑戦する矢穴技法 3分版」<https://youtu.be/VMrBRm4T2bY>

36 三瓶裕司「岡山後楽園所在の「大立石」について（第3報）」『日本情報考古学会公演論文集』 Vol.23, 2020年3月

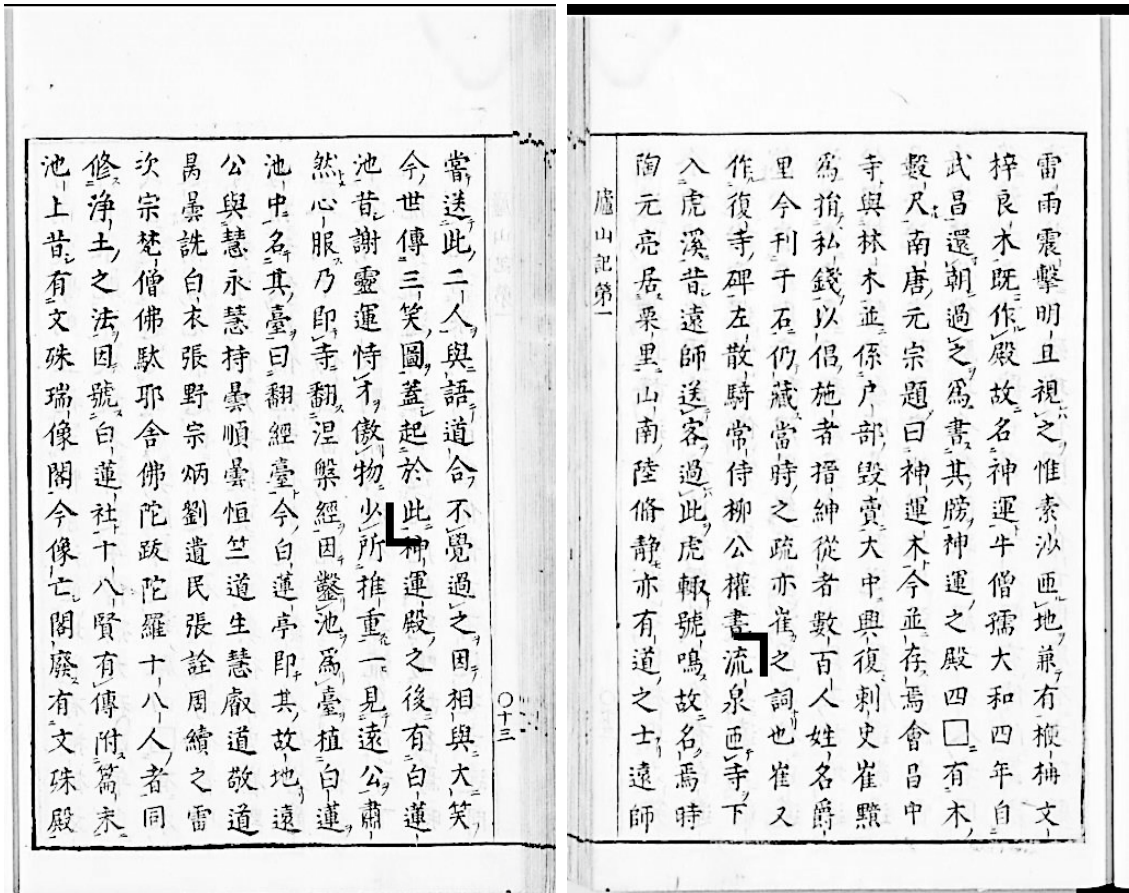


図4 国立国会図書館所蔵『廬山記五巻圖一卷』

なお、旧島津氏玉里邸庭園では橋脚石を据えて、その上に薄い板石を三枚継ぎにして架け渡している。

【参考文献】

- ・三瓶裕司「岡山後樂園所在の「大立石」について（予察）」『日本情報考古学会公演論文集』Vol.17, 2016年10月
- ・三瓶裕司「岡山後樂園所在の「大立石」について（第2報）」『日本情報考古学会公演論文集』Vol.22, 2019年3月
- ・三瓶裕司「岡山後樂園所在の「大立石」について（第3報）」『日本情報考古学会公演論文集』Vol.23, 2020年3月
- ・斉藤忠一『図解日本の庭—石組に見る日本の庭園史—』1999年
- ・『名勝 旧島津氏玉里邸庭園』パンフレット
- ・永見健一『薩藩庭園調査覚書』2021年2月1日受取
- ・『廬山記五巻圖一卷』国立国会図書館デジタルコレクション (2021/02/07 23:30閲覧)
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2537741>
- ・鹿児島市教育委員会『名勝旧島津氏玉里邸庭園—整備事業工事完了報告書—』2015年